

平成27年
3月号

桂台地域ケアプラザ

地域交流プログラム

発行日／平成27年3月1日
編集・発行／横浜市桂台地域ケアプラザ
発行責任者／石塚 淳

お問い合わせ先

地域交流部門 897-1111

HPアドレス

<http://www.katuradai.com>

桂台 支えあい連絡会

検索

先日、ファミリーホームの話聞く機会がありました。初めて聞く内容でしたが、ファミリーホームは里親制度と並ぶ新しい児童養護施設の形として2009年に制度化された施設だそうです。ファミリーホームは里親家庭と同様に一般家庭で開設できますが、預かれる子の人数が多く6人まで可能です。

さて、そのお母さん（養母）から聞いたお話です。その子は、幼いころホームに来たそうですが、当初から他の子よりもお母さんにべったり、台所にいればすぐそばに、高学年になってもスキンシップを求めてくるようなお子さんだったそうです。中学まではそれなりに学校に通っていたものの、勉強があまり好きではなかったのか、高校に入った途端に通わなくなってしまい、同じような境遇の彼女の家に入り浸りになってしまいました。当時は、そのお母さんは学校からしょっちゅう呼び出されていたそうです。それでも家に帰れば温かいご飯があることが大事と、毎日作り続けて家に帰ってくるのを待っていました。その息子はそんなお母さんに対して、素直に「ありがとう」という言葉もかけられず…。

ある日その子が警察に補導されました。息子は合わせる顔もないのか、「会いたくない」と言ったそうです。そうは言っても、お母さんは、お腹をすかせているだろうと、お弁当を差し入れました。そして、偶然にも廊下でその息子とすれ違った時、息子が照れくさそうに「ありがたみがわかった」と言ったそうです。その時のことを思い出されたのか、そのお母さんは急に涙ぐみ言葉を詰まらせました。

この話は、虐待のある家庭から引き取った児童と里親との間で起きた事です。養母とはいえ、お母さんの子供にかける愛情と幼いころに受けた子供の心の傷の深さが沁みました。今、ファミリーホームは、横浜市に7か所、虐待を受ける児童は年々増えており、里親に引き取られるお子さんはそれほど多くないそうです。

3月のおしらせ



◆親子で楽しくリトミック◆ ～体操やダンスで身も心も軽やかに～

梅の花があちらこちらでほほ笑みはじめました。やわらかなひざしを浴びて、ママといっしょにさあ踊りましょう！ 笑顔あふれる、心地良いひと時をすごしませんか？

日時：3月30日(月) 10:30～11:30

講師：幼児教室等インストラクター 菅原 亜紀さん

募集：未就学児と保護者 15組（定員次第締切）

場所：桂台地域ケアプラザ 2F多目的ホール

問合せ：桂台地域ケアプラザ ☎897-1111



注目！今話題のタブレット教室開催

～しっかり使いこなしてスマートシニアをめざしましょう～

タブレットの機能や操作方法を専門の方から学ぶチャンスです。ご一緒にぜひどうぞ！

日時：4月3日(金) 13:30～15:30

募集：65才以上の方 16名（定員次第締切）

参加費：無料

講師：KDDI（機器はお貸出します）

場所：桂台地域ケアプラザ 2F多目的ホール

問合せ：桂台地域ケアプラザ ☎897-1111



迷子高齢者への 声かけ訓練を実施

～認知症の方にもやさしい街に～

2025年問題について、巷で話題に上る事が増えてきました。ご存知のように25年は、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者になる年です。日本は急速な高齢化が問題でしたが、25年以降は、4人に1人が75歳以上という超高齢社会が到来します。これまで国を支えてきた団塊の世代が給付を受ける側に回るため、医療、介護、福祉サービスへの需要が高まり、社会保障財政のバランスが崩れるだろう、とも指摘されています。同様に認知症の対策についても大きな社会問題になることが懸念されています。その問題にいち早く取り組んできた団体がN（認知症）サポーターネットワーク桂台（谷朋子代表）です。「身近な地域で、みんなが認知症の事に関心をもつことが大切！」と1月24日、認知症で徘徊する人への声かけなどを行う「認知症徘徊模擬訓練」を主催し、実施されました。当日は、63名の参加者があり、次のような内容で進みました。

1. 声かけの心得（講師の話） 2. みんなで外へ出て、声かけ訓練 3. 振り返り

実際に、訓練を終えての振り返りでは、以下のようなお話が出ました。

声かけ訓練者の話

- ・やっぱり、声をかけにくい。
- ・急いでいる時に迷子になっていると思われる方に遭遇したら、どうすればよいのか？
- ・思い込みがあり、徘徊者はみんな急いで歩いているのだと思った。道端にしゃがみ込んでいる事もある事がわかった。

役者とカメラマンの話

- ・訓練参加者だけではなく、「なんか、おかしな人だ」と感じた通行人もいたようだが、声をかけられなかった。
- ・しゃがみ込んでいる時は、上から話しかけられたり、遠巻きにされたりすると威圧感や猜疑心を感じやすい。

当日のまとめ

認知症で徘徊をしている人を見かけても、声をかけて良いかどうか？ 判断は難しいものですが、講師から「みないふりをしない」という事が大切であるとコメントを頂きました。また、認知症の方を介護している家族にもこのような取り組みを伝えていき、状況を近隣に伝えることができる環境を作っていくことが大切だと結ばれています。

幸いにもこの地域では、認知症について考えてみよう、という機運が高まっています。

次のステップで温かい見守りの輪を広げていきましょう。

1. 声かけをするかどうか迷った場合

無理をして声をかけないで、その時の様子、場所、時刻などをメモしお近くのケアプラザに連絡をしましょう。状況を知っている場合もあれば、緊急と判断し様子を見に行く事もあります。ぜひ、携帯電話などに次の番号を登録してください。045-897-1111（桂台地域ケアプラザ）



2. もし、声をかけると判断した場合

驚かせない、急がせない、自尊心を傷つけないの「3ない」が声かけの基本です。まずは、「今日はお寒いですね」など、お天気の話や世間話から始めて、徐々に「どちらに行かれますか」など核心に近づいていくのが良いようです。もし、座れるようなところがあれば、一端ベンチなどに腰掛けると慌てずにすむようです。ご本人が急いでいたり、声かけをした方が、あまり時間をかけられない場合は、上記のようにケアプラザや栄警察（045-894-0110）に連絡をしてください。

3. 近隣の家族介護者への声かけ

もし、お近くに認知症の方を介護しているご家族がいたら、地域でこのような訓練が行われたことを伝えてみてください。もしかしたら、あまり良い返事がないかもしれません。日々、認知症に関する相談を受けますが、ご自分から近所の方にお伝えしている方も多くいます。そのほとんどは、その当事者をご近所に迷惑をかけるような事があって初めて「これは、伝えておかなければいけない」と思われるようです。ですから、まだ自分の家で何とかなる、と思っているご家族の方はどうしても口が重たくなります。また、完治する病気ではないという事も介護者の心に重しになってのしかかっているようです。すぐにはお返事がないかもしれませんが、近くで見守る人がいますよという、サインをさりげなく出しておくことが、少しずつ介護者の方の心を軽くする事につながるのではないかと思います。

4. 声かけ訓練の広がり

今回が、第1回の訓練、ということは2回目、3回目もと期待が高まります。訓練の企画から参加した者としての感想を言えば、この訓練をたくさんの方が経験する事が大事なような気がしました。今回、一地域だけで63名の参加者がありました。今回は実施までに数回の話し合いがありました。すでにプログラムのマニュアルは出来上が



っているのです、ご興味のある自治会や団体があればお伝えする事ができます。ぜひ、声かけ訓練の輪を地域に広げていければと思いますのでお気軽にご連絡ください。

NPO法人お互いさまねっと公田町団地からのお知らせ

～「みんな、元気！」を合言葉に、買い物支援と孤立予防の見守り～

NPO法人お互いさまねっと公田町団地が設立されてから、早いもので丸6年が経過しました。公田町団地は、東京オリンピックの頃に建設され、すでに40年を超えています。居住者の移動があるとはいえ、当初から住む方も多く、高齢化が進み、孤立予防や買い物支援が課題となっています。その課題を解決するために、立ち上がったNPO法人お互いさまねっと公田町団地は、拠点である「いこい」を中心に活動を展開しています。以前より、多目的ルームの貸し出しを行っています。活動の広がりを目指して、再度皆様に貸し室のお知らせをする次第です。

「いこい」多目的ルーム貸し室のお知らせ

利用可能日：月曜日～土曜日（年末・年始は休館）

現在利用している団体の活動内容

- ・シニア中心のヨガ
- ・子供たちのためのリトミック
- ・健康教室
- ・ヘルパー事業所や居宅介護支援事業者の担当者会議
- ・各種研修会や会議など

利用料金：1時間 1,000円（団体会員は割引有り）

利用人員：数名～15名程度

問合せ先：☎045-392-7556 お互いさまねっと公田町団地 有友、佐藤

※団体会員の登録については、随時相談を受け付けています。優先的に、お部屋の利用が可能になりますので、ご相談ください。

